

## プロジェクトごとの活動を進めるに当たって

北方小・研究推進委員会

- (1) 昨年度までの研究・先行実践を踏まえた研究を行う。これまでの研究成果や課題を生かす。「手引き」や「カード」などの成果物があれば、その普及・改善を図る。
- (2) 「こんなことをやりました」「あんなこともやりました」「すごいでしょ!」という研究ではなく、「こういう目的で、これとこれをやってみました。の結果から、こういう効果があったと言えます」という筋の通った研究にする。筋が通っていれば、他校での実践が可能となる。本研究指定の趣旨は、そこにある。
- (3) そのためには、手立て(例:手引きの作成,読書カードの活用,授業評価シートの導入など)と実施方法の効果を検証するための事前・事後の調査が必要である。調査方法や内容については、早急に吟味・決定する。
- (4) 事前調査はすでに終わっているものもあるが、未実施のものについては可能な限り早期に実施したい。
- (5) 各プロジェクトの「ウリ」(アピールしたいポイント,重点)をはっきりさせておく。アピールするためには、具体的なデータ(写真,ビデオ,音声,児童の授業感想,ノートのコピー,授業記録,家庭学習カード,保護者の声,保護者の願い,連絡帳のコピーなど)が必要になる。これらを考慮した上で、活動計画・分担を行う。
- (6) 以上のことを踏まえて、プロジェクトごとのスケジュール(活動予定)を立てる。9月の公開で何を示すかを決め、そのために何をいつする必要があるのかを検討する。